

大阪南ロータリークラブ会報

第 813 号

2025 年 12 月

Rotary
Club of Osaka-South



事務局 〒536-0011 大阪市浪速区日本橋西 1-2-11

マルニビル7階B

例会日 毎週火曜日 午後0時30分

例会場 センタラグランドホテル大阪3階

会長 新開 隆浩

幹事 清水 久博

職場見学会実施のご報告

職業奉仕委員長 佐藤 元相



2025 年 10 月 6 日、パイン株式会社滋賀工場を訪問し、職場見学会を実施いたしました。

今回の見学テーマは「躍進するパイン株式会社の製造現場体験と広報戦略」。

ものづくり企業としての最新の生産体制と、SNS を活用した広報のあり方を学ぶ貴重な機会となりました。

■ 製造現場の印象と学び

清潔で整理整頓の行き届いた工場内では、社員一人ひとりが誇りと責任をもって製造に取り組む姿が印象的でした。

自動化できる工程は徹底して自動化し、品質を左右する重要な部分では人の手と目で確認する。品質管理の徹底ぶりに強く感銘を受けました。

よいことのために
手を取りあおう
2025-2026
のテーマ

よいことのために手を取りあおう
「素敵な笑顔」に出会いたい ~笑顔で繋ごう! より良い未来へ~

フランチェスコ・アレツツォRI会長
新開 隆浩会長

見学には20名が参加し、4班に分かれてラインを順に視察。
パイン株式会社では通常、外部見学を受け入れておらず、今回は特別に現場そのものを公開いただきました。

入場時には専用の作業着・帽子・マスクを着用し、指定の履物に履き替え、ガイドラインに従って手洗い・消毒を実施。

衛生管理の徹底こそが、同社の信頼の源であることを実感しました。

■ 広報戦略と「お客さまの声を聞く力」

見学後は会議室にて、広報部長の井守氏、上田豊会長よりお話を伺いました。両氏の言葉から、パイン株式会社の強さは「お客さまの声を聞く力」にあることを深く感じました。

井守氏は2010年に公式Twitterを開設。

「パインアメ＝懐かしい」という言葉に危機感を抱き、「もう一度、今の世代とつながる必要がある」と考えたのがきっかけでした。

SNS運営において大切にしているのは、

「人を傷つけない」

「自社商品から離れすぎない」

というシンプルな2つのルール。

「難しいマニュアルよりも、シンプルな約束を守ることが大事。この2つを守れば、安心して発信を続けられる」と、自然体の投稿が共感を呼んでいます。

商品紹介だけでなく、季節の話題や日常の挨拶など“人間味ある発信”を意識。

寄せられたコメントには丁寧に返信し、時には工場や開発部門とも共有して改善に活かす。こうした「日々の対話」がファンコミュニティを育て、温かいブランドイメージを形成しているとのことでした。

なかでも印象的だったのが、“70年ぶりに里帰りしたパインアメ缶”のエピソード。

お客さまから寄贈された当時の缶をSNSで紹介したところ、17.9万件的「いいね」を獲得。その反響を受け、復刻デザインの「パインアメ缶」が発売され、多くのファンの共感を集めました。

まさに、顧客の声から新しい商品価値を生み出した象徴的な事例です。

井守氏は「SNSは広告ではなく、お客さまと話す場所。友だちと話すように、自然な関係をつくることを心がけています」と語られました。

■ 上田会長の経営哲学 — 「希望を描くリーダーシップ」

上田会長は、「社長の仕事は希望を描くこと」と力強く語られました。

数字や業績だけでなく、人の笑顔や社員の成長を何より重視する姿勢が印象的でした。

「社員を信じ、強みを伸ばす。弱みを責めず、問題をチャンスに変える」というお言葉には、社員一人ひとりを信頼する温かい経営哲学がにじみます。

滋賀工場では「理科の実験室のような現場」を目指し、社員の提案を積極的に採用。自

ら考え、改善し、挑戦する文化が根づいており、現場と広報、経営が有機的に連携しています。

■ まとめ

本年度の職場見学会は、パインアメ・NHK 大阪放送局・きんでん・コミニケ出版の4回にわたり開催いたしました。

いずれの企業も、仕事を通じて地域社会へ貢献する明確な使命を持ち、その姿勢に深い敬意を抱きました。

ただ、会報という限られた紙面のなかで、4回分すべてを均等に取り上げることは難しく、委員長として「どのようにお伝えするのが最も適切か」を考えた結果、今回はパイン株式会社滋賀工場の視察内容を中心にまとめることといたしました。

パイン株式会社の取り組みは、製造現場の工夫や広報の姿勢が明確で、職業奉仕の観点からも多くの示唆を得られる内容であったため、報告として整理しやすいと判断した次第です。

4回にわたる見学にご協力いただいた各企業の皆さま、そして参加して下さったロータリアンの皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。

今回の取り組みは、私たち職業奉仕委員会にとっても、「職業を通じて社会に奉仕する」という原点を再確認する機会となりました。



第2回クラブフォーラム

社会奉仕・国際奉仕部門

日 時：2025 年 11 月 18 日（火）

J テーブル ◎寶來、樋口喜、三宅、庄司

午後 5 時 30 分登録、午後 17 時 50 分開会

末澤、山田

場 所：ホテルイルクラシック大阪 7 階

「木漏日」中央区難波 4-3-3

☎ (6633) 0030

討議部門：社会奉仕・国際奉仕部門

形 式：バズセッション



議 題：

- ① 国内社会奉仕事業における補助金申請にむけた支援先のターゲット設定及び事業内容はどうあるべきか。
- ② 国際交流・世界社会奉仕事業における会員参加の拡大策はどのようなものがあるか。

出席者(敬称略. 順不同) 70 名

◎テーブルマスター

A テーブル 新開、草島、飯井、小八木、
鈴木慶、小林二、栗原、大桑

B テーブル ◎今西、原田、小島、武田、
寺川、山本和

C テーブル ◎伊藤勝、加藤、木積、河野、
大原、清水、谷村

D テーブル ◎柚、藤井、長谷川孝、松山、
奥長、佐南、山本ハ

E テーブル ◎小畑、相川、橋本、木下仁、
岡田、大熊、横山慶

F テーブル ◎樋口纏、下條、川谷、中沢、
新田一、楊井、米田秀

G テーブル ◎大西、木村、松本、西本、
世古口、下井、上村

H テーブル ◎岩崎、入江、持松、中島、
中村剛、八ッ橋、由谷

I テーブル ◎島本、伊藤芳、岩谷、桑原、
森、小椋、神藤、津田

1、開会挨拶：新開会長

本日は、昼間の例会に続きクラブフォーラムにご参加いただきありがとうございます。通常は国際奉仕部門とロータリー財団が合同で議論しますが、今年は国際奉仕と社会奉仕を一緒に議論します。地区補助金は1クラブ1事業しか申請できず、社会奉仕で申請すると国際奉仕では申請できない為、近年は社会奉仕で申請してきましたが、今年は国際奉仕に挑戦しました。来年以降は皆さんのご意見を踏まえて決めていきたいと思っています。本日はお酒を飲みながら自由に意見交換を行います。飲み比べや泥酔には注意し、自己責任で参加してください。活発な議論を通じて次年度につながるクラブフォーラムにしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2、テーブルマスター指名：清水幹事

3、初参加の新入会員紹介

岡田会員



4、ゼネラルリーダー議題説明：

大桑社会奉仕担当理事

今回は、社会奉仕と国際奉仕の同時開催であり、それぞれ一案ずつの議題となります。

社会奉仕では大阪南ロータリークラブの社会奉仕事業として、今後の支援団体の決め方やプロジェクトの在り方について、国際奉仕では国際交流事業と世界社会奉仕事業において会員の参加促進や情報共有の方法について議論します。11月開催したのは、飯井エレクトの提案で、補助金事業は年末までに決定し、翌年3月頃に確定するため、次の社会奉仕事業として実践的にできるためです。今回の議題は抽象的な部分もありますが、積極的に議論していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



5、キーノートスピーチ：小八木元会長

久しぶりのキーノートスピーチで緊張していますが、短い時間で話をさせていただきます。

近年、国際奉仕や社会奉仕の活動は大きく充実しており、20年前に理事を務めていた頃と比べると格段に進歩しています。現在は理事や委員長が真摯に活動しており、クラブ全体での取り組みが実感できます。奉仕の理念は単なる心構えではなく、行動に移すことが重要であり、理念を実践する人こそが真のロータリアンであります。地域社会や国際社会のニーズを把握し、それに応える活動を展開することが求められます。クラブとしては参加者を増やす努力が必要であり、紹介者は新入会員に責任を持って例会や事業への参加を促すべきです。行動が先にあり、その後に意識が伴うのであり、まず行動することが大切です。さらに補助金事業の仕組みについては、委員の継続性や自主性を高める制度改善が必要だと考えます。以上を踏まえ、今後のクラブ活動の活性化に向けて検討をお願いいたします。



6、乾杯：鈴木慶元会長

皆さんこんばんは。準備まで少し時間があるので一言ご挨拶申し上げます。

小八木元会長の素晴らしいお話に感謝します。今年はローターアクトクラブの社会奉仕事業として、万博に鶴見ホスピスの方々をご招待する事業を行い、大変印象深い活動となりました。また、栗原理事がミャンマーでの活動を予定しており、私自身も過去に世界社

会奉仕を担当した際にミャンマーを訪れ、仲間と親しく語り合った経験が良い思い出として残っています。今回もぜひ多くの会員に参加していただきたいと思います。さらに、新開トラックが来年6月まで無事に運行し戻ってくることを祈念するとともに、今年一年の無事と皆様の健康・ご多幸を願います。病気や怪我で療養中の方々が一日も早く回復され、再び顔を見せていただけるよう祈りつつ、ここで乾杯をさせていただきます。

7、テーブルマスター報告（発表順の通り）



B テーブル：今西国内社会奉仕委員長

食事をしながら先輩方の経験談を伺い、国際奉仕に長く関わってきた方々のお話は私にとって目から鱗でした。まず会員参加の拡大策については、人を巻き込むことが重要であり、特に海外の国際交流はきっかけがないと参加しにくいですが、先輩に誘われて参加したことで別世界を知り、以後積極的に参加するようになった。こうした経験から、会員を増やすには人を巻き込むことが最も有効だと考える。次に奉仕の対象については、地域に立ち返るべきだとの意見があり、地域で奉仕することで成果を継続的に観察でき、真に感謝される活動となる。過去の震災支援の事例を振り返ると、奉仕は一時的なものに終わらず、その後も現地で評価され続けることが大切だ

と感じた。まとめると、奉仕のターゲットは地域に設定し、事業の成果を継続的に確認できる内容にすべきであり、会員参加の拡大策は人を巻き込むことに尽きる。以上をもってテーブル発表に代えさせていただきます。



C テーブル：伊藤勝国内社会奉仕副委員長

社会奉仕事業における補助金申請に向けた支援先の設定と事業内容について、谷村会員から70周年記念事業である植林事業の経験を紹介いただいた。自身の仕事との親和性や人脈を活かすことで企画立案が円滑に進み、意義ある事業となったとの報告があった。

一方で、補助金ありきの企画は本末転倒であり、ニーズの検証が不十分なまま申請する危険性が指摘された。補助金がなくても必要な活動は行うべきであり、単年度を超えて継続できる仕組みを考えることが重要だと述べた。次に国際交流・世界社会奉仕事業における会員参加の拡大策については、まず未経験者を誘って参加させることが有効であり、新入会員は台湾への参加を推奨するとの意見が出された。渡航が難しい場合には国内でのイベントや報告会、協力団体との関係構築を通じて参加を促すことができ、さらに海外事業の様子を同時中継で共有する方法も有効であると述べた。



D テーブル：杣世界社会奉仕委員長

社会奉仕事業における補助金申請に向けた支援先の設定については、地元のニーズに応えることが重要であり、事業方針の説明を行った上で会員へのアンケートを通じて支援先を見つけ、意識を高めるべきだとの意見が出た。大阪市では人口が増加しているが、外部からの流入が多く隣人とのコミュニケーションが不足しているため、生活上の困りごとを相談できない人が増えており、こうした地域のニーズに応える支援が必要だと指摘された。

次に国際交流・世界社会奉仕事業における会員参加の拡大策については、現地とのセッションをオンラインで同時開催するなど、日本にしながら参加できる仕組みを作ることが有効だとの意見が出た。また、ミャンマー事業に関しては、現地に持参する物品を日本で会員全員が協力して作成することで参加意識を高める方法や、現地での活動を大阪南ロータリークラブの例会と同時中継し、会員がその様子を共有することで一体感を持てる仕組みが提案された。いずれにしても、地元や現地が本当に必要としているものを探し出し、押し付けではなくニーズに基づいた事業を行うことが重要であるとの結論に至った



E テーブル：小畑インターアクト副委員長

社会奉仕事業については、これまで子供を対象とした事業が多かったが、今後はシングルマザーや身寄りのない高齢者など年齢層を広げるべきだとの意見が出た。ただし、支援対象を調査する時間が限られており、補助金申請のスケジュールに組み込む難しさも指摘された。

次に国際奉仕事業については、海外参加のハードルが高いことから、楽しさややりがいを伝える工夫が必要であり、過去の活動映像を共有することが有効だとの意見があった。また、国内でチャリティーコンサートを開催し海外支援に充てる方法や、助産師を日本に招待して国際支援を行うなど新しい切り口も提案された。最後に、来年度の国際大会はドバイで開催されるため、ぜひ皆様に参加してほしいです。



F テーブル：樋口 国内社会奉仕委員

ロータリークラブは単年度制で運営されているが、継続性も求められており、同じ事業を2度行えないという地区のルールとの矛盾をどう解決するかが課題である。重点的に継続すべき事業についてはクラブ単独で実施する方法も考えられるとの意見があった。海外事業については出張申請の難しさから、国内で外国人向けの事業を行う方法が有効だとの意見が多く、さらに意義よりも面白さを重視した事業を企画することで参加拡大につながるなどの革新的な提案もあった。事業展開においては経験者と未経験者を組み合わせて未経験者に機会を与えることが重要であり、最終的な判断は会長一任とする意見も出された。

また、RIの申請基準は厳しいため、事業内容を精査し誰からも批判されないような確実な事業案を提出することが、信頼を得て資金を確保する最良の方法であるとの指摘があった。



G テーブル：大西 国際交流副委員長

社会奉仕事業については、どこにニーズがあるのかを議論し、経済的に困窮している小規模団体や社会的に表に出にくい団体への支援が必要ではないかとの意見が出た。

ただし補助金の対象になりにくいというジレンマもあり、交通遺族会やオーバードーズ問題、ヤングケアなど地域に根ざした小さな

支援を模索することが重要だと述べた。そのためには委員会等で会員にアンケートを取り、身近な困窮団体を把握して事業を検討することが有効だとした。

次に国際交流・世界社会奉仕事業については、参加のハードルが高いため、まず事業を知りイメージすることが大切であり、例会や委員会を通じて事業紹介を積極的に行うべきだと述べた。栗原理事による紹介や小学校建設事業の事例を挙げ、こうした情報共有が参加促進につながると強調した。



H テーブル：岩崎 国際交流委員

社会奉仕事業における補助金申請に向けたターゲット設定については、入江氏の過去の子供文楽事業の経験を踏まえつつ、従来の活動がマンネリ化しやすいとの意見が出た。ニーズに合わせて新しい企画を模索し、産みの苦しみを経て多様な案を出すことが必要だと述べた。

次に国際交流・世界社会奉仕事業における会員参加の拡大策については、海外渡航のハードルが高いため、日本にいながら参加できる仕組みをネットやウェブを活用して整えるべきだとの意見があった。また、費用面の負担が大きいことも課題として挙げられた。さらに、参加者数は多ければ良いというものではなく、設営側の負担も考慮すべきだとの指摘もあり、今後も検討の余地がある。



I テーブル：島本国際交流委員

幹事の説明が十分に聞き取れなかった為、テーマを一つに絞り、世界社会奉仕事業における会員参加拡大策について議論した。議論の冒頭では雑談もあったが、最終的には海外参加は仕事や費用の面でハードルが高いため、魅力をしっかり発信することが重要だとの意見に集約された。姉妹交流などの制度があっても個人間の交流が深まらなければ魅力に欠けるため、人と人とのつながりを重視すべきだとされた。言葉の壁については翻訳技術の活用で克服可能であり、メールなどを通じた交流も始まっているとの報告があった。さらに、海外交流はクラブ内の人間関係を深める効果もあり、その魅力をオンライン等で共有することで参加者を増やせるとの結論に至った。



J テーブル：寶來国内社会奉仕委員

多くのテーブルで同様の意見が出ていたた

め重複部分は割愛するが、まず国内社会奉仕事業については、特定の会員に依存している傾向が強く、参加しやすい仕組みが必要だとの意見があった。また、補助金申請ありきで事業を立案する現状は本来の奉仕の精神から逸脱しており、事業ありきで補助金を活用すべきだとの指摘があった。

次に国際奉仕事業については、現地参加が難しい会員も多いため、国内でできる国際奉仕の形を模索すべきだとの意見が出た。栗原理事のミャンマー事業への誘い方はインパクトがあり参加意欲を高める良い例だと評価された。また、地域奉仕の具体例としてベビー食堂の活動が紹介され、身近なニーズに目を向ける重要性が強調された。国際事業への参加促進には、単なる呼びかけではなく、活動の実感を伝えることが大きな要因になるとの結論に至った。



8、ゼネラルリーダー講評：栗原国際奉仕担当理事

今回のフォーラムは社会奉仕と国際奉仕を組み合わせた新しい試みであり、多数の参加を得て貴重な意見が集まりました。小八木元会長のキーノートスピーチ、鈴木慶元会長の乾杯から始まり、参加者は経験豊富で能力の高い方々でした。討論では地域への奉仕、シングルマザーや高齢者への支援、国際奉仕の理解促進、姉妹クラブとの交流など多くの有

意義な意見が出されました。これらの議論を参加者だけでなく、まだ経験の浅い会員にも伝え、社会奉仕や国際奉仕の意義を広めることが重要であると強調した。日本には 2200 クラブあるが、200 人を超えるクラブはわずか 6 クラブであり、大阪南ロータリークラブはその一つとして伝統と格式を兼ね備えた地区のリーディングクラブです。外部からも評価される活動を続けることで、会員拡充とクラブの質向上につながり、最終的には自身のロータリーライフの充実にも結びつきます。



9、閉会挨拶：山本和副会長

本日は、例会に続き長時間のご参加に感謝いたします。今回は、国際奉仕と社会奉仕が一緒にフォーラムを行いました。会員全員が実践を通じて真のロータリアンとなることが大切だということです。

国際奉仕は、文化を理解し相手の立場で考えること、社会奉仕は地域に貢献し相手のニーズを理解することに本質があります。

補助金事業は限られた期間での申請となりますが、奉仕の心を基盤に活動を進めるべきで、今日の議論が次年度の事業に活かされ、会員一人ひとりが真のロータリアンとして歩むことを祈念し、閉会の挨拶といたします。

(文責： 副幹事 末澤 市子)

11月定例理事会

協議事項

1. 新年例会の設営について
2. 第3回クラブフォーラム（職業奉仕部門）の件
3. 出前授業の件
4. 春の家族会の件

審議事項

1. 新入会員候補者の件
2. 年末懇親会の件
3. 青少年部門3委員会合同事業について
4. 地区大会登録料について
5. 台北中央 RC 記念パーティダンス備品について
6. ミャンマーコンテスト協賛金について

報告事項

1. 大阪南 RAC 地区補助金事業報告
2. 第2回クラブフォーラム（社会・国際奉仕）登録状況
3. 台北中央ロータリークラブとの姉妹クラブ継続について
4. 次年度役員・理事指名委員会の件
5. 第2回クラブアセンブリー開催の件
6. ニコニコの件
7. 事務局員の件
8. その他

ニコニコ箱へ

茨木西 RC

宮里 唯子 会員から ・新開会長のご活躍に期待して…。

濱口 健宏 会員から ・台湾では、大変ありがとうございました。

福本 桂太 会員から ・ホームクラブ連続欠席のお詫び

伊藤 勝彦 会員から ・台北中央 RC 訪問お世話になりました。栗原理事、寺本委員長、委員会の皆様、ありがとうございました。

岩谷佳也子 会員から ・下井さん、職場見学では、お世話になりました。初めての朝礼体験楽しかったです。ありがとうございました。

川谷 周平 会員から ・台北中央 RC 40 周年パーティーありがとうございました。
栗原理事、寺本委員長お世話になりました。

小畑 剛平 会員から ・台北中央 RC 40 周年式典では、栗原理事、寺本委員長、大変お世話になり、ありがとうございました。新開ダンサーズの皆様、年末懇親会も楽しみにしております。

河野 修	会員から	・本日の卓話者の十河基文さんをよろしく願います。会員友好委員会の第1回フェローシップゴルフ会に参加された皆様お疲れ様でした。 ・台北中央 RC 40 周年お疲れ様でした。栗原理事、寺本委員長、台北ダンサーズ あっばれ！でした。
栗原 大	会員から	・台北ご参加の皆様、本当にお疲れ様でした。無事に成功裏に終わることが出来ました。ご協力ありがとうございました。
桑原 健郎	会員から	・台北ではお世話になりました。
松山 大祐	会員から	・台北中央 RC 40 周年お世話になりました。 栗原理事、寺本委員長、委員会の皆様ありがとうございました。
飯井 克典	会員から	・栗原理事、寺本委員長、田村さん、松山さんはじめ皆様、台北では大変お世話になりました。ありがとうございました。
宮川 大作	会員から	・台北中央 RC 40 周年ではお世話になりました。
森 光三	会員から	・下井さん！職場見学お世話になりました。教えていただいた朝礼の合言葉は実行していますヨ！
中村 剛	会員から	・台北中央 RC の 40 周年では、栗原理事・寺本委員長はじめとする国際関係の皆様には大変お世話になりました。楽しい時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。
大熊 直子	会員から	・新開会長、栗原理事、寺本委員長とても楽しい台北、ありがとうございました。OSK に参加させていただき、いい思い出になりました。来年も頑張ります！ ・わたくし、大熊直子は今晚 21 時からのマツコの知らない世界に出演いたします。ぜひ、見て頂けるとうれしいです。忘年会の方も多いと思いますが、録画もしくは Tver などで見逃さないようよろしくお願いいたします！
清水 久博	会員	・台北中央 RC 40 周年記念式典にご参加いただきました皆様、お疲れ様でした。栗原理事、寺本委員長、委員会の皆様、ありがとうございました。
新開 隆浩	会員から	・台北中央 RC の 40 周年記念パーティーに参加しました。栗原理事、寺本委員長はじめ国際交流委員会の皆様ありがとうございました。
新開 隆浩	会員	
清水 久博	会員から	・宮里パストガバナーの御来訪を心から歓迎いたします。
谷 明	会員	
神藤 佳浩	会員から	・台北ゴルフコンペにて、1 位と 2 位をいただきました。国際交流委員会の皆さまには、大変お世話になりました。尚、神藤は、今回無事帰国する事が出来ました。ありがとうございました。
末澤 市子	会員から	・素敵なことがあったので、ニコニコします。
寺本 一徳	会員から	・台北中央 RC 40 周年にご参加されました皆様お世話になりました。ありがとうございました。
山本 和良	会員から	・台北中央 RC の 40 周年では、栗原理事、寺本委員長はじめ国際奉仕の皆様には大変お世話になりありがとうございました。お陰様で楽しい旅行となりました。又、ダンスチームでは、松山さん、マリアさん、高見さんに特訓して頂いたお陰で何とかパフォーマンスができました。ありがとうございました。
山岡 大	会員から	・土井先輩、本日の卓話笑かして下さい。